

第 5 回学校運営協議会 議事録

日時令和 6 年 1 月 16 日(火)

〈学校運営協議会各グループからの発表〉 ※太ゴシック部分は委員からの提案事項

【1班】

- ・(人員不足でもあり)職員室に先生がいないことや電話もつながらないことがある。
- ・地域とのコミュニケーション、地域とのつながりが薄い感じもする。
- ・地域とのつながりが薄れてきたことは、行事が減ったこと(コロナの影響も)も関係ある。
- ・(来校した時は)先生たちに挨拶をしてほしい。不審者対応にもつながる。

【2班】

- ・遊ぶところがない。ボールも使えないところもある。それがスマホやゲーム等に走ってしまうことになってしまうのでは。(地区協議会や行政にも呼びかけて)遊ぶ場所を作ってあげないとそういった子供たちが増えていく。
- ・いろいろな人が参加してもらえるように情報提供をしていくことが大切。

【3班】

- ・働き方改革について職員は意識ができています。
- ・学校だよりはなかなか保護者に伝わらないこともある。
- ・メディア、スマホ、ゲームなどは保護者が規制できる。他の子供の使用時間がどのくらいか分かっていない。アンケートを取ってみれば、実態や基準が分かるので参考になるのでは。

(北岡校長)

学校評価の報告は、今回の学校運営協議会を受けて発信する予定。

これほどまでに子供が育ったのは皆さんのおかげである。学校教育目標を学校運営協議会と共有してきたことで、子供たちの成長(社交性など)につながっている。

〈南関町教育委員会、走潟小学校運営協議会との意見交換会〉

(廣瀬校長)

子供との熟議など、子供たちと話し合うメリットはどのようなことがあるか？

(森崎委員)

6年生の子たちは、スマホの時間のことなど正直に話している。本音で話ができた。子供たちも改善点などを考えていた。表情がよかった。

(平川委員)

一緒にテーマについて協議ができる。私たちは大人の目線でものを言っているが、子供の本音を聞くことができるため、私たちも本音で話せる。一緒に話し合うことは有意義だった。

(田中副会長)

子供との関わりが少なくなっている今、地域の子供たちと話し合える良い機会。何かするたびに地域との付き合いができることで、楽しい地域になる。

(南関町 米澤さん)

社会に開かれた教育課程、目標の共有が実現の第一歩になっていると資料に書かれているが、今までどのような取組をしてきたのか？

(北岡校長)

学校運営協議会のみなさんは、子供を育てる当事者であること、子供が育つ学校にしていくという目標を共有している。先ほども述べたが、教育目標を共有した上で、本年度、子供たちとの協議を3回行ってきた。(そのために昼の時間に設定)

子供たちと話すことで、仲良くなり、つながりができている。

(渡邊会長)

子供たちは説明が上手になった。最近は、子供が地域の方と話す機会がなくなってきている中、自分の考えを別の(親や先生以外の)大人に発信している。それを私たち大人が受け止める良い機会となる。こうしたことを通して、説明力が伸びたと考える。

(武藤推進員)

同じ方向を向き、何か活動しようということへのアドバイスを伺いたい。

(田添委員)

学校との信頼関係を築いている。それがこの学校運営協議会にギュッと詰まっている。

(北岡校長)

学校や地域、家庭でできることはそれぞれ限られている。足りないことを引き上げるのではなく、ジグソーパズルのように、それぞれが力を合わせて創り上げていくことが必要である。だからこそ、先ほども話したように学校教育目標を共有している。

(芥川さん)

素晴らしい内容。しっかり発信して取り組みたい。提案が達成できるように協議会はどのような保証をしていくのか？

(寺田委員)

大事なテーマであり、実現が難しいところもある。行政につないで発信していくことが大事。

(北岡校長)

研究発表会でも地域の提案を行い、協働している。企画したものについては、様々なところに提言していきたい。

(太田教授)

(他地域の実践では)話し合うときからボランティア団体などの関係者が同席する。そこで企画を練り、具体化していく。後日集まって発表する。そこで選び、実現させていく。仕掛けをしていくことでタイレクトに関係部署に届くし、パイプができている。子供たちにとって教室の学びから社会での学びにつながっていくという事例がある。こうした取組にしていくことで、子供たちもやりがいが出てくる。